

新品種候補（2020 年 1 月作成）

育種事業課題名：てんさい新品種候補「H152」の概要（722561）

担当部署：北見農試・研究部・地域技術グループ、十勝農試・研究部・地域技術グループ、
中央農試・作物開発部・作物グループ、上川農試・研究部・地域技術グループ、
北海道てん菜協会

キーワード：てんさい、高糖分、根重、根中糖分、糖量

1. 特性一覧表

系統名：「H152」 交配：「MS102」×「POL104.034」

特性：長所 1 根重がやや多く、根中糖分が対照品種並に高く、糖量が多い。

短所 1 褐斑病抵抗性が“中”である。

2 根腐病抵抗性が“弱”である。

普及見込面積：令和 3 年度 200ha 令和 4 年度以降 3,000ha

試験場所	北見農試、十勝農試、中央農試、北海道てん菜協会			
調査年次	平成 29, 30, 令和元年			
品種・系統名	H152	アマホマレ (標準品種)	ラテール (対照品種)	パピリカ (比較品種)
倍数性	二倍体	三倍体	二倍体	二倍体
種子の胚数	単胚	単胚	単胚	単胚
胚軸の赤色個体	中	やや多(多)	少	中
草姿	やや開平	中間	やや直立	やや直立(直立)
葉長	中	中(長)	やや短(中)	中
葉数	中	中(やや多)	やや多	やや多(多)
葉色	やや濃緑	緑	やや濃緑	やや濃緑
葉形	やや披針	楕円	やや披針(披針)	やや披針
葉面縮	中	少	やや多	やや多(中)
葉身の大きさ	中	中(やや小)	やや小	中(やや小)
葉柄長	中	中(やや長)	中	中(やや短)
葉柄の太さ	中	やや太(中)	やや細	中
根形	やや短円錐	やや短円錐	やや短円錐	やや短円錐
根重(t/10a)	7.57(103)	7.36(100)	7.18(98)	8.23(112)
根中糖分(%)	17.54(100)	17.57(100)	17.18(98)	16.73(95)
糖量(kg/10a)	1,328(103)	1,293(100)	1,235(96)	1,376(106)
抽苔耐性	強	強	強	強
そう根病抵抗性	強	弱	強	強
褐斑病抵抗性	中	中	強	やや弱
根腐病抵抗性	弱	弱	弱	やや弱
黒根病抵抗性	やや強	中	やや強	中

注 1) 形態的特性は、北見農試の直播栽培による成績。「アマホマレ」の括弧は、品種登録における特性。「ラテール」、「パピリカ」の括弧は、優良品種認定時の特性。

2) 根重、根中糖分および糖量は、北見農試、十勝農試および北海道てん菜協会(3か所)ののべ15か所平均で、括弧内は「アマホマレ」に対する百分比。

3) 特性検定は抽苔耐性(北見農試、平成30年、令和元年)、そう根病抵抗性北見農試、(平成29～令和元年)、褐斑病抵抗性(十勝農試、平成29～令和元年)、根腐病抵抗性(十勝農試、平成29～令和元年)、黒根病抵抗性(中央農試、平成29～令和元年)の成績。

「H152」は、高糖分の「ラテール」と比較して、根重がやや多く、根中糖分はほぼ並で、糖量が多い。褐斑病抵抗性が、「ラテール」の“強”に対して“中”であるが、「パピリカ」の“やや弱”に比べてやや強い。

平成 24 年に北海道優良品種に認定された「ラテール」は、テンサイそう根病、テンサイ褐斑病、テンサイ黒根病の 3 病害に抵抗性を持つ。特に褐斑病抵抗性が“強”であり、主力品種の「パピリカ」が多収であるにもかかわらず褐斑病に弱いため、褐斑病の発生しやすい圃場で栽培されてきた。また「ラテール」は根中糖分も高いため、低糖分になりやすい圃場でも栽培されてきた。このようにてんさいの安定生産に貢献してきた「ラテール」であるが、収量が低いため、収量性の向上が課題となってきた。

以上のことから「H152」を、褐斑病発生に特に注意が必要な圃場を除いて、「ラテール」と置き換えて普及させることで、てん菜生産と農家所得の安定と向上に寄与できる。

北海道一円

- 1) 褐斑病抵抗性が“中”であるので、適切な防除に努める。
- 2) 根腐病抵抗性が“弱”であるため、適切な防除に努める。

下段は、各地区比較品種対比％
 （平成 30 年、令和元年平均、斜里町は、
 平成 30 年の湿害のため令和元年のみの成績）
 比較品種は、
 真狩村：「リボルタ」
 美瑛町：「カーベ 2K314」
 斜里町：「パピリカ」

